

WORLD TOPICS

ISO/TC225 WG2 第4回国際会議 参加報告

TC225 国内対策委員会 委員長 一ノ瀬 裕幸

同委員 古川 史人

1. 国際会議の概要

1月のマドリード会議に引き続き、WG2の第4回国際会議が東京で開催された。

日時： 2007年4月16日(月)～17日(火)
会議名： ISO/TC225 WG2 第4回国際会議
参加者： WG2メンバー(9カ国+1オブザーバー、計16名参加)
Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)
Secretary: Dr. Holger Muehlbauer (DIN 事務局)
参加国： オーストラリア(1)、スペイン(1)、フランス(3)、メキシコ(1)、
日本(一ノ瀬、古川：2)、イギリス(1)、カナダ(1)、アメリカ(1)、
ドイツ(WG2議長国：4)、ESOMAR(オブザーバー：1)
場所： 東京(インテージ社の会議室借用)

2. 討議/決定事項

- ① タスクフォースチームから提出された第3章「用語の定義」に関するドラフトについて検討した後、第4章以降の「規格要求事項」とISO20252との整合性に関する討議を終了させ、CD(Committee Draft)原案を採択した。議長と事務局による編集作業の後、3ヶ月以内にCDとしてISO中央事務局に提出される。
- ② 9月にベルリンで開催する次回のWG2会議でCDに関する各国の意見・要望についてさらに検討を行い、TC225全体会議でDIS(Draft International Standard)として採択する。
- ③ その後、2008年2～3月にシドニーで開催予定のWG2会議にてさらに討議を重ね、FDIS(Final DIS)として採択することを目指す。

3. 今後の作業スケジュール

- ① 2007年9月19日～20日、ベルリン(ドイツ)にて第5回WG2を開催する。
(翌9月21日には、TC225の第6回全体会議を開催する。)
各国からのコメントについては、7月末が事務局宛提出期限。
- ② 2008年2～3月をメドに、シドニー(オーストラリア)にて最終WG2を開催する。
- ③ 国際投票を経て、新ISO規格として成立へ。
注) 2008年12月を制定目標としているが、2009年8月が最終期限として示された。

4. 会議の状況と関連情報

(1) 用語はできるだけシンプルかつ明解に

- ・ 「用語の定義」は、今後の議論および検討の枠組みを規定する重要な章である。今回、似通った用語はできるだけ一本化し、また誤解を招きにくい表現へと修正された。
例えば、Panel user → Client、Panelists → Panel members などである。
- ・ 他にも、アクセスパネル使用の調査において、Response rate（回答率／回収率）というランダムサンプリングから導かれる用語をそのまま使用するのとは適切でないという判断から、Participation rate（参加率）を採用するなどの変更が行われた。

(2) フランス代表の提案の多くが空振りに

- ・ 前回のマドリード会議から復帰したフランス代表が多くの修正提案を用意してきたが、そのほとんどが「CDに対する修正コメントとして提出するように」求められ、厚い壁にはばまれるかのような結果となった。
すでに第1回～第2回の討議で議論済みの課題が多かったためでもあるが、この種の国際会議でのブランク挽回を図るのは容易でないことがうかがえた。

(3) 日本における今後の進め方

- ・ 前回にもレポートしたことだが、数値目標がほとんど盛り込まれなくなったことから、国際的に「もめる」要素は乏しいと思われる。日本の実情にあわせて、どう実務的な課題を設定していくかが重要である。
- ・ 202052の時の経験から、今回のCDにはまだまだ多数の変更が入ることが見込まれ、QS委員会でコメント（英文）を検討して提案した後、9月にDIS（案）が成立した段階で翻訳に入ることが現実的と考える。

以上